平成19年度予算 施策別概要

421 自然環境の保全・再生と活用

(主担当部局:環境森林部)

42101 野生動植物保全活動の推進 (環境森林部)

42102 自然とのふれあいの確保 (環境森林部)

42103 河川、海岸の保全・再生 (県土整備部)

42104 自然環境保全の研究の推進

(政策部科学技術振興センター)

<施策の目的>

(対象)県民が

(意図)自然環境を地域の自然的社会的条件に応じて保全・活用している(地域の自然的社会的条件に応じて保全・再生・活用された自然環境に囲まれ、生活を営んでいる)

<施策の数値目標>

施策目標		目標値	2010	5 3 , 5 3 5 h a
項 目	多様な自然環境の保全面積		2007	53,500ha
(主指標)		現状値		53,485ha

「自然公園特別地域面積」、「自然環境保全地域特別地区面積」、「里地里山保全活動計画認 定面積」の合計面積(環境森林部自然環境室調べ)

県の取組	里地里山保全活動計画認定団体およ	目標値	2010	4 7 団体
目標項目	びみんなで自然を守る認証団体累計		2007	2 7 団体
(副指標)	数	現状値		2 1 団体

<現状と課題>

- ・ 県民の自然環境に対する認識の高まりに伴い里地里山など身近な自然の大切さが見直されていることから、県民やNPOなど多様な活動団体が主体となった保全活動がより一層重要になっています。
- ・ 開発などに伴う環境への負荷の増加により、野生動植物の生息環境が悪化しているなど、野生動植物の保護が喫緊の課題となっていることから、自然環境保全のための調査や情報の整理、 さらに開発などを行う際には自然環境への影響の低減に配慮して野生動植物の保護をはかる 必要があります。

< 平成19年度の取組方向 >

多様な自然環境を保全するため、三重県自然環境保全地域などの管理や、里地里山などの身近な自然を保全する県民による活動を支援します。

「三重県レッドデータブック 2005」で明らかになった希少野生動植物を保全するための 普及啓発を行うとともに、特に保護が必要として県が指定した希少野生動植物の保全活動 を県民と協働して行い、生物の多様性を確保します。

自然公園などの豊かな自然と県民とのふれあいを促進するため、自然公園などの施設の整備や維持管理を行います。

河川や海岸の整備を進め、潤いある自然豊かな水辺空間を創出します。さらに、森林の

有する多面的機能が高度に発揮される森林管理手法や野生生物との共生をはかりつつ、森 林被害を軽減するための研究などを進めます。

< 主な事業 >

自然環境重要地域保全事業【基本事業名:42101 野生動植物保全活動の推進】

予算額: 1,833千円 1,566千円

事業概要: すぐれた自然環境を有する地域を保全するため、自然環境保全地域の新たな指

定や適正管理を進めます。また、里地里山保全活動計画に基づく活動を支援しま

す。

(一部新)生物多様性確保事業【基本事業名:42101 野生動植物保全活動の推進】

予算額: 13,545千円 14,613千円

事業概要: 生物の多様性を確保するため、鳥獣保護区等の設定、特定鳥獣対策、非鉛製散

弾利用促進、アライグマ対策緊急調査等を行うほか市町が実施する有害鳥獣捕獲

を支援します。

希少生物保全事業【基本事業名:42101 野生動植物保全活動の推進】

予算額: 5,807千円 3,858千円

事業概要: 県民と自然環境情報を共有することにより、県民の自発的な自然環境保全行動

を促進し、人と自然が共生できる地域環境づくりを進めます。

自然公園利用促進事業【基本事業名:42102 自然とのふれあいの確保】

予算額: 28,554千円 27,351千円

事業概要: 県民の自然とのふれあいを促進するため、自然公園施設の適正な管理を行いま

す。また、自然公園内での一定の行為を規制し、自然保護に努めます。

県単自然公園等利用施設整備事業【基本事業名:42102 自然とのふれあいの確保】

予算額: 19,650千円 13,755千円

事業概要: 国の直轄事業に含まれない地域において公園整備を行うとともに、既存施設の

補修や小規模な公園整備を行います。

自然文化に親しむ施設整備事業【基本事業名:42102 自然とのふれあいの確保】

予算額: 12,000千円 9,600千円

事業概要: 国定公園内の施設整備および長距離自然歩道の災害復旧を行い、利用者の安全

な使用を促進します。

都市河川改修事業【基本事業:42103 河川、海岸の保全・再生】

予算額: 640,000千円 780,000千円

事業概要: 洪水等による災害を防止・軽減するため、河川堤防の整備を行います。

なお、整備にあたっては自然環境や生態系に配慮します。